

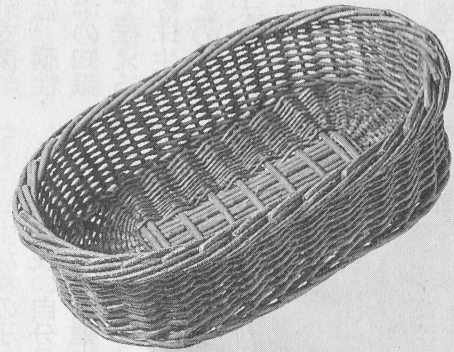
そばに置きたい



蒸した後に樹皮をむいて白くしたコリヤナギを編んでいきましたが、私が心をひかれたのは、練習用に編んだという茶褐色の大きなかごでした。素材の良さが出ていました。「これで作ってほしい」と私が提案すると、婦人会の人たちは反発しながらも作ってくれました。

気がつけば宮崎県を代表する民芸品として認知されるようになってきましたが、その後、後継者の育成がうまくいかな

素材の良さ感じる杞柳細工



宮崎市ではかつて、コリヤナギを編んだ「杞柳細工」作りが盛んでした。1970年

代には地域の婦人会を中心に、減反政策の影響で使わなくなった田で育てたコリヤナギを使って、様々なかごを作っていました。

かったことや材料を育てる難しさなどで徐々に下火になってしまいました。

数年前、沖繩の窯で働いていたことがある牧師の野中睦久さんから連絡がありました。野中さんは杞柳細工の最後の作り手である安井早智子さんと宮崎市で出会い、「ぜひ挑戦してみたい」ということで私にアドバイスを求めてきたのです。

今では安井さんの指導のもとに数人が集まり、訓練をしながら細工作りに取り組んでいます。技術も当時のものと遜色ありません。まだ小さい火ではありますが、うまくいけば再興する可能性があると考えしみにしています。

宮崎の杞柳細工 縦30センチ、横18センチ、高さ8.5センチの楕円形のカゴ。税抜きで6800円。問い合わせは久野さんが関わる民芸店「手しごと」（電話03・6432・3867、火曜定休） 外山亮一撮影

（手仕事フォーラム代表）

久野恵一